

ルチアめる

精神科地域包括ケアシステムへの序章 ～診療報酬改定と聖ルチア病院が目指す精神科医療～



入職2年目の同期4人組

左から 池田美羽さん、富松咲都さん、古賀愛満さん、坂本綾音さん

- 新卒1年目の職員の挑戦 ～成長の軌跡～
- FOCUS／ギャンブル依存症ってどんな病気？
- 聖ルチア病院のプロフェッショナル／外来サポートナース

精神科地域包括ケアシステムへの序章

～診療報酬改定と聖ルチア病院が目指す精神科医療～

2024年4月に行われた診療報酬改定は、介護報酬、障害福祉サービスとともにトリプル改定となりました。6年に1度の同時改定は制度間の調整も行う重要な改定です。精神科領域では、「入院治療から地域移行」「地域密着に向けた支援」を重視する方向性が示されました。聖ルチア病院は2020年から、「専門性の高い医療の確立」と「精神科地域包括ケアシステムの構築」に取り組んできました。今回の特集では、国の精神科医療の方向性と聖ルチア病院の取り組みについて、山口浩昭看護部長と坂井洋詞事務長に話をききました。

当院の目指す方向性を改めて実感

今回の診療報酬改定をどのようにとらえていますか

山口 「地域移行」や「地域密着」を易しい言葉にすると、「住み慣れた場所で暮らし続けること」と言い換えられます。聖ルチア病院は以前から「精神科版地域包括ケアシステムの構築」を目指しています。多くの関係機関と連携して地域の皆さまを支えていくという考えです。今回の改定は、「精神科地域包括ケアシステムの構築」を国全体で進めていこうという意思の表れで、当院の目指してきた方向性を改めて実感しました。

また、今回の診療報酬改定では「精神科入院退院支援加算」「精神科養育支援体制加算」などが新設されました。算定要件を見ると、「精神科入院退院支援加算」では退院支援計画の作成や各種専門職の専従・専任配置など、患者さまへの手厚い支援体

看護部長兼
教育部長

山口 浩昭

制や内容が求められています。多職種が関わるため、確実に実行するためのプロトコル(手順の流れ)の整備や、計画の振り返りや見直しなど、高い質や成果が求められます。地域との連携についても、患者さま、ご家族の視点で考えると、サービスの質向上には欠かすことはできません。今後もさらなる充実を目指したいと思います。

入院では質の高さが求められるというお話ですが、在宅を含めた地域医療にはどのように取り組みますか

坂井 今年6月にデイケア棟が、来年3月には体育館が完成します。1階に重度認知症患者デイケア、2・3階に精神科デイケアを配置し、従来の精神科デイケアとしてだけでなく、児童思春期や依存症などの疾患に特化した専門性の高いプログラムを提供します。在宅支援部門としてデイケアと訪問看護ステーションで、さまざまな疾患や年齢層の患者さまが住み慣れた街、住み慣れた家で自分らしく暮らし続けられる支援を整えます。また併設する障害者グループホームについても利用者さまに応じたサポートや体制のあり方について改めて検討しているところです。障害福祉分野におい

精神科地域包括ケアシステムとは

厚生労働省は、精神障害の有無や程度にかかわらず、地域で安心して自分らしく暮らせるよう、医療、障害、介護、就労、など様々な機関が連携して支える「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム(略称:にも包括)」の構築を目指しています。「入院医療中心から地域生活中心」という理念を示し、精神科医療機関、その他の医療機関、地域援助事業者、市町村による重層的な支援体制づくりを計画的にすすめています。

て、精神科医療で培った精神疾患に応じた対応や服薬管理などのノウハウを活かして、地域から求められるグループホームをつくりたいと考えています。医療と障害福祉をシームレスに展開することで患者さまの社会復帰や在宅復帰の一助を担い、また復帰後も安心して社会生活が送れるように支えていければと思っています。

急性期医療を軸に時代に合った精神科医療の追求

今後はどのような取り組みを進めていきますか

山口 「精神科地域包括ケアシステムの構築」の観点から、地域の医療資源の一部として精神科分野で高い専門性を発揮して、多くの患者さまを受け入れていくことだと考えています。当院は昨年、精神科急性期治療棟を増設しました。「うつ病」「児童思春期疾患」「依存症」「統合失調症」「認知症」の5つの疾患を中心とした専門性の高い精神科医療サービスを地域の多くの皆さまに提供することを目指しています。精神疾患の急性期患者の受け入れ体制を整え、高い専門性で最適な治療をおこなう、これを充実させることが私たちの使命であり、関係機関の皆さまや地域の精神衛生に貢献できると考えています。

急性期医療の充実は具体的にはどのようなことですか

山口 24時間対応できる体制を整えること、迅速な診断と治療、安心安全な環境を提供すること、関係

機関との連携など、これらをさらに強化していくことが急性期医療の充実に繋がります。そのためには、各専門職が専門性を高めていくこと、専門職同士の連携をさらに高める必要があります。診療報酬改定でも、心理士や精神保健福祉士、栄養士など、診療の質を高めるための専門性が求められる要件が増えました。今後もさらに専門性の向上、チーム医療の強化で急性期医療を推進していきたいと思っています。

坂井 この10年を振り返ると、私たちを取り巻く地域社会環境や経済、私たちの生活、医療も大きく変化しました。精神科医療においても求められることが大きく変わり、大治院長のもと、地域医療構想や関係法規の改変に基づいて、出来る限り時代の先を読みながら、我々にできることを模索し、取り組んできました。これからも“最良の精神科医療”を提供できるよう、最新医療機器の導入や新薬を使える環境づくりなど、患者さまや地域から必要とされる診療体制を充実させたいと思います。そして関係機関の皆さまと協働して精神科地域包括ケアシステムの構築に寄与し、地域の精神衛生の向上に努めていきたいです。

事務長

坂井 洋詞



▲2025年3月完成予定の社会復帰施設の全体図



新卒1年目の職員の仕事 成長の軌跡

昨年聖ルチア病院に入職した同期4人組が、
関根麻紀人事部長と共にこの1年間を振り返ります。

池田美羽 MIU IKEDA

昨年の春に高校を卒業し、聖ルチア病院の事務として働き始めました。受付での患者さま対応や電話対応業務から始まり、特に言葉づかいや電話対応の仕方は、これまでの学生のとさくにはいけなと、意識しておしていきました。先輩の対応をよく見て勉

強し、今は最初に比べればだいぶ良くなったかなと思っています。

今は外来医事の仕事を始めたところです。患者さまや治療によっていろいろな加算などがあり、覚えることが多いですが、難しいケースの算定を正しくできていた時に、先輩が「すごいじゃん!」と褒めてくれるのがとても嬉しいです。難しく見える医事の仕事をしている先輩の姿に、かっこいいなと憧れていたの、私も早く医事の仕事をミスなくできるようになって、今まで仕事を教えてくれた先輩方に恩返しできたらと思います。



古賀愛満 MANAMI KOGA

作業療法士として病院内で働いています。入職したばかりの頃は、患者さまのどこに着目して何をすると良いかもわからなかったのですが、プリセプターの先輩が手取り足取り教えて下さいました。作業療法士の先輩方はみなさんそれぞれに強みがあるのだなと気が付き、まずは先輩の真似をすることから始めて、仕事を覚えていきました。

当院では、作業療法士が行事の企画や運営をしており、昨年のクリスマス会では、司会を任せてもらいました。元々人前で話すことが苦手だったのですが、この経験がきっかけで、患者さまの前で話すことに自信がつかしました。

今後の目標は患者さまの心の拠り所になる作業療法士になることです。この人になら任せてもいい、自分の気持ちを話してみよう、と思われる作業療法士になって、患者さまが安心して気持ちを整えたり、趣味をみつけたりする場を提供したいです。



坂本綾音 AYANE SAKAMOTO

私は事務所で働いています。患者さま対応で一番気を付けていることは、言葉づかいです。電話だとお互いに表情も見えず、声でしかコミュニケーションをとれないので、なるべく丁寧に、言葉を選んで正しく伝わるように気を付けています。対面であれば、身振り手振りも使えるので、例えば耳が遠い患者さまにはジェスチャーを交えるなど、工夫しています。

今は病棟事務の仕事をしてます。最初はミスもしたし、先輩にたくさん質問をしていましたが、最近では一人で仕事を完結できるようになりました。



りました。部署の面談でも「成長したね」と褒めていただき、頑張ってた良かったと思います。

当院の事務には、総務、経理、医事など様々な仕事があり、私の前任者は医事の仕事などもしています。私も早くできることを増やして、事務の中で他の仕事も手伝えるような、頼りになる存在になりたいです。



富松咲都 SATO TOMIMATSU

作業療法士として、社会復帰施設のデイケアで働いています。デイケアには作業療法士の他にも看護師や心理士、栄養士が所属しているので、多職種の先輩の姿からも学ぶことがたくさんあります。デイケアの中だけでなく、病棟や訪問に行くと多職種の中で意見を出す機会もあり、最初は自信がなかったのですが、わからないことは素直に聞きながら勉強してきました。普段から周りのスタッフにすごく支えられていると感じています。先輩だけでなく、同期の3人とも、一緒にはしゃいだりしてリフレッシュ

できるので、すごく支えられています。

今は、気になる利用者さまに個別に介入したりと工夫できるようになりました。就労支援もしているの、これからはもっと、利用者さまご本人の意見を尊重しつつ、就労や生活をしやすいように支援する方法を見つけて、患者さまやご家族から信頼される作業療法士になりたいです。



私も20数年間当院で働いてきて、辞めようかなと思うことも何度かありましたが、ここまで頑張れたのは、職員や患者さまのことが好きで楽しく仕事ができ、相談できる上司や同僚、時

には愚痴も言える仲間がいたからだと思います。人との関係を大事にしてきた当院の強みだと思います。これからもみんなで支え合い、そしてこの1年で経験したことを基に次の新入職員たちをサポートしてあげてください!

関根麻紀 人事部長より





ルチアちゃん
聖ルチア病院
イメージキャラクター

今最も注目の情報にフォーカス!

FOCUS

ギャンブル依存症って どんな病気?

ギャンブルは楽しいエンターテインメントの一つですが、依存症というリスクも伴います。今回はルチアちゃんと、精神科医の町田先生の対話を通じて、昨今、注目度が高い「ギャンブル依存症」について学びましょう。



精神科医師 町田 三彩

一般精神医療、精神保健認定医
日本精神神経学会認定医・指定医
日本医師会認定産業医

ルチアちゃん

町田先生、ギャンブルって楽しそうだけど、依存症になるって聞いたことがあります。どうしてそんなことになるんですか?

町田先生

いい質問ですね、ルチアちゃん。ギャンブル依存症は、脳の仕組みと強く関係しているんです。

ルチアちゃん

脳の仕組みですか?具体的にどういうことですか?

町田先生

ギャンブルで勝つと、脳が「ドーパミン」という快感を感じる化学物質を出します。このドーパミンが出ると、「もっとやりたい」という気持ちになります。

ルチアちゃん

なるほど。それでドーパミンが出続けると、やめられなくなるんですね。

町田先生

その通りです。さらに、ギャンブルには「勝つかもかもしれない」という期待感があり、それも脳に強い刺激を与えます。これが繰り返されると、どんどんギャンブルに依存するようになります。

ルチアちゃん

でも、みんなが依存症になるわけじゃないですよね?どうして一部の人がそうなるんですか?

町田先生

そうですね。ギャンブル依存症になる人は、ストレスや不安をギャンブルで解消しようとする人が多いんです。また、ギャンブルをすることで得られる快感を強く求める傾向があります。



ルチアちゃん

町田先生の話聞いて、ギャンブルには楽しさだけでなく、リスクもあることを改めて感じました。もし、ギャンブルで何か問題が起きたら、早めに専門家に相談することをみなさんに勧めますね。



聖ルチア病院の
依存症治療

ルチアちゃん

ストレスや不安が原因なんですね。それってどうやって防げばいいんですか?

町田先生

大切なのは、自己管理とサポートです。まず、ギャンブルに使うお金や時間をあらかじめ決めておくこと。そして、ギャンブルをしなくてもストレスを解消する方法を見つけることです。運動をしたり、趣味に時間を使ったり、友達と話すなどです。また、もしギャンブルが問題になっていると感じたら、家族や友人、専門家に相談することも大切です。

ルチアちゃん

相談することも重要なんですね。周りの人に助けてもらうことが大切なんだ。

町田先生

その通りです。ギャンブルの楽しさを感じつつも、リスクを理解し、バランスを保つことが大切です。もし自分や周りの人がギャンブルで困っているなら、早めにサポートを求めることが大事ですよ。

ルチアちゃん

町田先生の話聞いて、ギャンブルには楽しさだけでなく、リスクもあることを改めて感じました。もし、ギャンブルで何か問題が起きたら、早めに専門家に相談することをみなさんに勧めますね。



聖ルチア病院は法人外の多くの施設と連携し、患者さまを支えています。今回は株式会社LikeLab様をご紹介します。LikeLab様は、就学前の子どもの児童発達支援、就学児の放課後等デイサービス、就労継続支援事業所のほかレストランを運営。障がいを持つ子どもや家族が安心して進む道を選べるよう「切れ目のない支援」を目指されています。



代表取締役 田中 崇さん LikePot久留米中央 管理者 原 明日香さん

株式会社LikeLabは、高齢者施設勤務の経験を経て、2013年に、創設しました。当時、多くの児童支援施設は、未就学児から高校生までの利用者が同じ場所で過ごし、勉強している子のそばで運動する子がいるなど、年齢の差や子どもの特性に配慮した環境ではありませんでした。子どもたち一人ひとりの可能性を伸ばす支援が必要だと考え、放課後等デイサービスは小学生と中学生で部屋を分け、学習室と運動室を分けることや、構造化、カームダウンなどの工夫をしました。

子どもから大人まで「切れ目のない支援」を行うため、久留米市内3店舗のほか、小郡市、鳥栖市、基山町に拠点を持ち、LikePotをはじめとするこども支援チーム(児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援事業)6カ所、おとな支援チーム(就労継続支援A型・B型作業所)2カ所、相談支援事業1カ所の事業所を展開しています。事業所には保育士や理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などの有資格者を多数配置し、専門的な視点で利用者さまを見つめ、多職種で共同して支援しています。

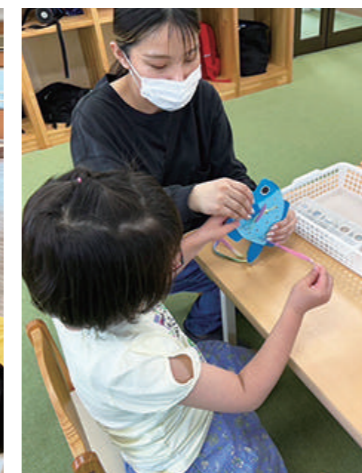
ほかに、スコーン専門店とレストランを運営し、キッチンカーも運営していることが特色です。就労支援事業A型は、一定の収益を求められる一方で、商品の販路を確保しづらいこ

とが課題です。事業を継続するためのビジネス感覚が求められます。一般飲食店の勤務経験者とレストランを経営することで、売れ筋や商品の作り方、販売前のチェックの仕方などが学べるので、作業所においても質の高い商品をつくることができます。スコーンは専門店での販売のほか、地元スーパーにも卸しており、商品として認められていると感じています。

当社は、障害があっても「〇〇屋さんになりたい」という夢を叶え、働きたい人の伴走者でありたいと思っています。「スコーンを作りたいから、LikeLabに行きたい」という利用者

さまがいらっしゃいます。さまざまな職業特色を持つ就労支援事業所が生まれ、たくさんの「〇〇屋さんになりたい」の夢が描けるようになると思います。

聖ルチア病院さんは、利用者さまの主治医として関わっていただいたり、退院後に当施設を利用する方もいらっしゃいます。久留米市内の療育は、民間施設が手探りで進めているケースが多いのが現状です。医療と福祉と一緒に支援の方法を考えていく必要性が高いと感じています。聖ルチア病院さんとともに連携を深められるとうれしいです。



当院の外来では、今年の4月から「外来サポートナース」がスタートしました。外来サポートナースは、来院された患者さまやご家族の外来受診のサポートをして安心していただくことが目的です。

例えば、待ち時間が長くなっている患者さまにお声かけして不安を取り除き、次の診察や検査にスムーズに移れるようサポートします。時には診察や検査担当の看護師と情報共有し、待ち時間短縮のために動きます。

外来サポートナース第1号として働くのは、看護師として当院で35年間以上勤務し、病棟師長や看護部長の経験もある、原むつ子さんです。精神科急性期から慢性期の全て

の病棟と訪問看護ステーションで勤務した経験から、疾患や患者さまとのコミュニケーションを熟知しています。疾患や患者さまによっては、声をかけてほしくないタイミングもあるので、患者さまの様子をよくうかがいながら、適切なタイミングを見計らってお声かけしています。

スタートから3カ月が経ち、患者さまから「この前は助かりました」というお声もいただくようになりました。より待ち時間を短縮し、スムーズに受診していただけるよう、他部署の協力を得ながら、さらに良くしていきたいです。



▲「年齢を重ねても経験を活かせる新しい仕事に挑戦できてモチベーションが上がっています」と原さん

連携先の皆さまへのメッセージ

外来でお困りのことがあればお声かけください。上手く活用していただけたらと思います。

看護師 原むつ子



氏名：原 怜子
所属：精神科急性期治療病棟
うつ病治療チーム (rTMS療法担当)
趣味：食べること、ゲーム



新卒で入社して5年目です。精神科急性期の所属で、うつ病チームのrTMS療法を担当しています。日々の患者さまの行動や言葉の小さな変化から、症状や心の変化に気づけるよう心掛けています。患者さまの入院生活の中で一緒に考え、退院されて社会生活に戻られる過程に参加できることに、精神科看護のやりがいを感じています。



社会医療法人 聖ルチア会
聖ルチア病院
St. Lucia's Hospital

〒830-0047 福岡県久留米市津福本町1012
TEL0942-33-1581 (代表)
FAX 0942-33-1586

関連施設

- ・精神科デイケア、デイナイトケア、ショートケア
- ・重度認知症患者デイケア すずらん
- ・訪問看護ステーション クローバー
- ・訪問看護ステーション クローバー おおき
- ・グループホーム ルピナスI・II・III

